



産業用 有圧換気扇 (低騒音形ステンレスタイプ20cm~60cm)

Table with columns: タイプ, 排気タイプ (形名, 羽根径, 屋内区分), 給気タイプ (形名, 羽根径, 屋内区分). Lists various fan models and their specifications.

取扱説明書 (据付工事説明書付)

お客様へ
お客様ご自身では据付けしないでください。
(安全や機能の確保ができません)
ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

据付工事終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。
この製品は日本国内用です。日本国外では使用できません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

据付工事説明書 (販売店・工事店様へ)

1.安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

警告
誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
爆発性の粉じんやガスの発生する場所または発生するおそれのある場所には据付けしない
オールステンレスタイプは塩素消毒している温水プール、酸・アルカリや腐食性物質・腐食性ガスの濃度が高い場所には据付けしない

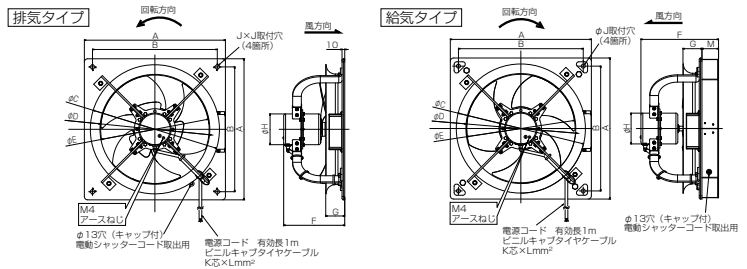
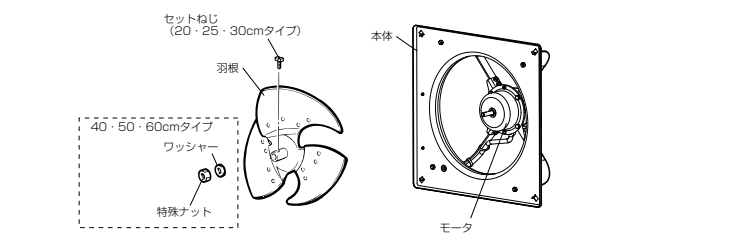
注意
誤った取扱いをしたときに軽傷または建物・機械などの物的損害に結びつくもの
直接炎が当たるおそれのある場所には据付けしない
オールステンレスタイプは相対湿度95%、オールステンレスタイプ耐食タイプは相対湿度98%を超える場所に据付けしない

2.据付け前のお願い

●軸水平姿勢で据付する場合 (給気タイプ機種のみ)
部品間の隙間をコーキング処理した面 (右図参照) を必ず下側にしてください。
●軸垂直羽根下向き (給気タイプの場合は羽根上向き)
姿勢で据付ける場合 (羽根径50cm以上の機種)
モーター内部のプリロードスプリングを反対側に移動する必要があります。

●この製品は高所取付用です。バックガードを装着しても床上1.8m以上のところに据付けてください。
●屋外用は、直接雨が掛かる場所でも使用できます。
●厨房の排気はオールステンレス厨房用をご使用ください。
●給気タイプをご使用の場合は、雨天時の雨水の吸込抑制のため防雨ブレード付給気形ウェザーカバーまたは雨水浸入抑制部材 (羽根径40cm以上の機種) のご使用をおすすめします。

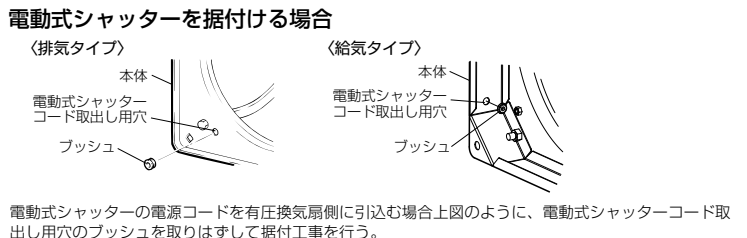
3.各部のなまえと外形寸法図



■変化寸法表
単位(mm)
排気タイプ形名 A B C D E F G H J K L
給気タイプ形名 A B C D E F G H J K L M

4.据付方法

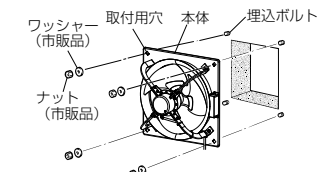
注意
●この製品は高所取付のため床上1.8m以上に据付ける けがの原因。
●開梱・据付けの際は手袋を着用する 端面などでのけがの原因。
●製品の据付けは振動のない強固な場所に確実に行う 共振により、騒音・羽根破損などの原因。
(お願い)
●汚れた空気を排出するときは新鮮な空気の入るところが必要です。



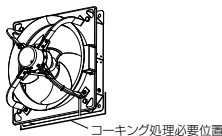
据付工事説明 4.据付方法 つづき

コンクリート壁に据付ける場合

タイプ	シャッターを 移動可能な 製品の場合	シャッターを 移動不可な 製品の場合	単位 (mm)	B	ボルト径
20cm	230	230		280	M8
25cm	275	270		330	M8
30cm	325	320		380	M8
40cm	430	410		460	M12
50cm	530	510		560	M12
60cm	620	610		650	M12



- 壁穴をあげ、左図の位置に市販の埋込ボルトを埋め込む。
- 本体を据付ける。埋込ボルトに本体4か所の取付用穴を通し、市販のワッシャー・ナットで確実に固定する。
- コーキング処理をする。(給気タイプの場合) 本体と壁の合わせ部(下图参照)にコーキング処理をする。(処理しない場合、雨垂れの原因)



システム部材を使用して据付ける場合

本品には壁面への取付部材として下記を用意していますので、用途に応じてお選びください。(対応形名は三菱電気送風機総合カタログに記載)
 ●取付枠 ●絶縁枠 ●スライド取付枠 ●木枠 ●不燃枠
 ※各システム部材の据付けの際はそれぞれの据付工事説明書に従い据付けてください。

ドレンキャップ、ドレンねじについて

〈ドレンキャップの場合〉 〈ドレンねじの場合〉



屋外や湿度の高い場所、水蒸気や常時湿潤している場所、給気タイプで濃霧や雨水の吸込が想定される場所で使用する場合は、モータに設けたドレンキャップ、又はドレンねじが下側になるように据付け、下側になったドレンキャップ、ドレンねじを取り付けず。(取りはずさない場合、モータ内部結露による漏電や軸受損傷によってモータ交換が必要になる) ※上記取付場所、ほこりの多い場所ではドレンキャップ、ドレンねじを取付けたまま使用し、ときどき取外して点検してください。

5.電気工事

警告

定格電圧・定格周波数以外では使用しない
感電・感電
 アースの工事は必ず資格者である電気工事が電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
感電・感電
 ●電源は単相100Vと3相200V~220Vの製品があります。
 ●電源の間違いがなければ確認して接続してください。間違えた電源で運転するとモータが焼損します。
 ●必要に応じて電気工事士によるD種接地工事を行ってください。(3相200V~220V機種は必須)
 ●漏電ブレーカを必ず設置してください。
 ●モータの焼損防止のため、過負荷保護装置(モータブレーカ又は電磁開閉器(電磁接触器+サーマルリレー))を設置してください。過負荷保護装置は必ず機器1台ごとに据付けてください。過負荷保護装置の選定は最大負荷電流の1.2倍を目安にしてください。

注意

電気工事は必ず資格者である電気工事が内線規程や電気設備の技術基準に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分はJIS C 8340の「電線管用金属製ボックス」内で行う。
感電・感電
 接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。

6.据付工事後の確認・試運転

据付け、電気工事終了後、必ず次の1~4を確認し、試運転を行って5,6を確認してください。

- 製品は確実に据付けてありますか。
- 電源コードに傷・いたみはありませんか。
- 正しくアース工事がしてありますか。
- 電源電圧は正しいですか。
- 異常な振動や騒音はありませんか。(異常がある場合は運転を停止し、電気工事内容を確認してください)
- 3相製品の場合、回転方向が逆ではありませんか。(回転方向を修正する場合は、3本の電源のうち2本を入れ換える)

全体の清掃

■油、粉塵など可燃性の汚れが換気扇に付着していると、万が一の飛び火により火災の原因となるおそれがあります。必ず定期的(約1年を目安)に清掃してください。

お願い

●お手入れに下記の溶剤・洗剤を使用しないでください。
 シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリン、灯油、スプレー、アルカリ洗剤、化学ぞうきんの薬剤、クレンザー等研磨剤入りの洗剤(変質・変色する原因になります)

3か月に1度の清掃の際、下記の点検を行ってください。

点検項目	処置
錆	製品および製品据付け用ナット・ボルトが錆びていませんか。(製品落下によるけがのおそれがあります) 羽根および羽根取付け用ナットが錆びていませんか。錆が製品の広範囲に発生している場合は、部品を交換してください。(製品落下によるけがのおそれがあります) 錆が製品の広範囲に発生している場合は、部品交換が必要です。販売店・工事店様に修理を依頼してください。(製品落下および羽根落下によるけがのおそれがあります)
ガタつき	製品を据付けたナットがゆるんでいませんか 羽根やモータは確実に締結されていますか ガタつきがないようにナットを締め付けてください。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。
損傷	モータの外観が変色していませんか 電源コードにキズなどありませんか 羽根に亀裂などありませんか モータ交換をしてください。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。 コードまたはモータ交換をしてください。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。 羽根の交換が必要で、販売店・工事店様に修理を依頼してください。(羽根破損/落下によるけがのおそれがあります)
ほこり	モータなど温度の高い部分にほこりの付着はありませんか フィルター・防虫網をご使用の場合、目詰まりしていませんか 清掃してください
異常音	軸受やモータの交換が必要で、販売店・工事店様に修理を依頼してください。 <small>※製品の寿命は50℃環境での連続運転時において約3万時間です。(使用環境によっては短くなる場合があります) 点検のうえ、交換が必要で。</small>

3.修理を依頼する前に

長い間ご使用の換気扇は、使用上支障がなくても、安全のための診断をお願いします。下記のような現象が見られる場合、お客様で点検されても直らないときは、事故防止のためブレーカを切り、お買上げの販売店・工事店に点検修理をご依頼ください。費用については販売店・工事店にご相談ください。

現象	原因	処置
運転しても回転しない	ブレーカが切れている	ブレーカを入れる
停止と運転を繰り返す(3相200Vタイプの場合)	モータの焼損保護装置が動作している	電源を切り、原因を取り除いた後、モータが冷えてから電源を入れる(注)
運転中に異常音や振動がする	羽根の締め付けがゆるんでいる 本体の締め付けがゆるんでいる 軸受より異常音が出る	締め付け直す 締め付け直す 軸受の交換が必要です。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。
焦げ臭いにおいがする	広範囲に錆が発生している	錆びた部分の交換が必要です。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。
	羽根に何かが引っ掛かっている 周囲温度が50℃を超えている	引っ掛かっている物を取り除く 周囲温度が50℃を超えている場合は使用できません。 周囲温度を下げるか、オールステンレス扇用を使用してください。
	モータ内部が腐食している	モータの交換が必要です。 販売店・工事店様に修理を依頼してください。

(注) モータに安全装置として、温度ヒューズまたは、自動復帰形サーマルプロテクターが内蔵されています。拘束、過負荷、欠相運転、異音が出た、あるいは周囲温度が基準より高い場合には、上記安全装置が自動的に動作し回転が停止することがありますので、電源を切り原因を取り除いてください。(フィルター・防虫網を使用している場合は、目詰まりも原因となります。) 再運転の場合には、以下を実施してください。
 ●温度ヒューズ内蔵機種……単相100V機種
 ●自動復帰形サーマルプロテクター内蔵機種……3相200~220V機種
 (如左) ヒューズが溶断し通電不能となり再運転できません。電源を切り、専門の工事店へモータ交換を依頼してください。
 ●自動復帰形サーマルプロテクター内蔵機種……3相200~220V機種
 (如左) 電源を切り原因を取り除いて、モータが冷えてから再運転し正常に動作することを確認してからご使用してください。
 電源を切らずに通電したまま放置しますとサーマルプロテクターが動作を繰り返し、接触不良や接点溶着につながるおそれがあります。この場合は、モータ交換が必要となります。電源を切り専門の工事店へモータ交換を依頼してください。

4.アフターサービス

ご不明な点や修理に関するご相談は、お買上げの販売店かお近くの「三菱電機 ご相談窓口・修理窓口」(別紙)にご相談ください。
 ※別紙チラシが不明な方は下記窓口にお問い合わせください。

■ご相談窓口
平日 9:00~12:00 13:00~17:00 (土・日・祝・弊社休日以外) 三菱電機換気送風機技術相談センター……電話 0120-726-471 (無料)

所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
■補修用性能部品の保有期間
 当社はこの三菱有圧換気扇の補修用性能部品を製造打切り後9年保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

取扱説明

(お客様へ)

1.安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

水ぬれ禁止
 製品を水につけたり、水をかけたりしない
ショート・感電・火災の原因。

分解禁止
 どんな場合でも改造はしない
 分解修理は修理技術者以外の人は行わない
火災・感電・けがの原因。
 修理はお買上げの販売店または当社のお問い合わせ窓口にご相談ください。

接触禁止
 運転中は危険ですから、製品の中に指や物を入れない
けがの原因。
 電源が入ったままで運転が停止しているとき、異常時(こげ臭いなど)・停止時は、製品には絶対ふれない
突然運転し始めたりけがや感電の原因。

ぬれた手で操作をしない
感電やけがの原因。

指示に従う
 お手入れや保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電やけがの原因。

注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または建物・機械などの物的損害に結びつくもの

禁止
 製品に異常な振動が発生した場合は使用しない
製品・部品の落下によりけがの原因。

指示に従う
 1日50回以上のひんぱん起動・停止を伴う使用はしない
部品の破損、落下によるけがの原因。
 長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカを切る
絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因。
 羽根の汚れがひどい場合は必ず清掃をする
振動による部品の破損、落下によるけがの原因。

指示に従う
 お手入れや保守点検の際は手袋を着用する
端面などでのけがの原因。

2.お手入れ・点検

警告

お手入れや保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る感電やけがの原因。

注意

お手入れや保守点検の際は手袋を着用する端面などでけがの原因。

羽根などの清掃

- 約3か月に1度を目安に清掃する。
 ●お手入れは中性洗剤を浸した布で汚れをふき取り洗剤が残らないように乾いた布でよくふき取る。
 ●ほこりの多い場所で使用している場合は3か月に1度を目安に、下側のドレンねじまたはドレンキャップをはずしてドレンを抜き、元通りドレンねじまたはドレンキャップを取付ける。(ドレンを抜かない場合、漏電や軸受損傷の原因となる)

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号